

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成19年 12月 1日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1171900259
法人名	株式会社カネット・ふれあい
事業所名	ふれあい多居夢戸田
所在地	335-0015 埼玉県戸田市市川岸3-5-1 (電話) 048-447-7000

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成19年11月26日

【情報提供票より】(平成19年10月21日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成13年3月20日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	27 人	常勤 19 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	22.6 人

### (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り		
	4 階建ての	2 階 ~	4 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	40,000円 + 実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (150,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 550 円
	夕食	500 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(10月21日現在)

利用者人数	26 名	男性 4 名	女性 22 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名
要介護3	11 名	要介護4	6 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87 歳	最低 77 歳	最高 102 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	新田クリニック、戸田中央総合病院、ラビット歯科
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営推進会議を定期的開催しており、各ユニット代表の家族がひとりずつ参加し、事業所内の状況の報告や、行政の動きなどを確認している。また、地域住民による園芸ボランティアを受け入れ、利用者と一緒に玄関のプランター、植木や花の世話をされ、さらには各ユニットに季節の花を飾っている。また、動物ボランティアにより、かわいい犬が来て癒しの場となっている。これらは、季刊「ふれあいだより」などでも確認でき、地域の方との交流・協働が活発に行われていることが伺われる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の調査では、介護計画の見直し期間、評価について課題があった。これに対しては大部分改善されているが、まだ一部の方については改善できていない。研修については、グループホーム協議会の研修などに参加しているが、職員育成のための年間計画が整備されていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホーム長が自己評価を記入され、その他の職員は自己評価の作成に関わっていない。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>会議を通して民生委員をはじめとした会議のメンバーとのコミュニケーションが図られ、このネットワークから中学生のボランティア受け入れが実現している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>意見箱の設置や、運営推進会議への家族の参加など、家族の意見を汲み取る仕組みができています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町会への入会や、各ボランティアの受け入れなど、地域の方たちとの交流がなされている。また地域の盆踊りなどにも参加されている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「高齢者の尊厳と自立を支える」という法人の理念をふまえ、事業所の理念を「入居様優先のケア」としている。そして、「事業所の中で多くの夢を持って、過ごしてもらるように心がけている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のホーム長会議では事業所の理念に基づいて、どのようなケアがよいかについて、話し合いがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民生委員のネットワークから地元中学生の体験学習を受け入れて、利用者との触れ合い交流がなされている。また、町内の盆踊り大会に参加したり、市民音楽祭などへも参加している。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の自己評価、外部評価の結果が会議室に公開されている。また、指摘された事項について各種委員会で話し合わせ、課題については職員全員が共有している。指摘されたケアプランは、3ヶ月毎の見直しやアセスメントに改善が見られるが、すべての利用者に対してできていない。今回の自己評価についてはホーム長が単独で作成されており、職員全員が参加して作成されたとは言いがたい。		職員全員が参加して自己評価及び外部評価に取り組み、できていること、できていないことを理解し、課題を共有して欲しい。また、前回指摘された課題や今回明らかになった課題について共有し、年間計画を立てて改善に取り組んでいくことが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催される運営推進会議には、各ユニットの代表の家族が参加され、市担当者や民生委員等の意見を聞き取っている。また、統括ホーム長からは事業所の現状が報告され、会議内で討議されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員の事業所訪問を受け入れ、利用者との話し合いや相談を行っている。また、地域への情報発信の役割を担ってもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回預かり金の収支状況や事業所内の様子などの近況報告をしている。また、納涼祭などのイベント写真などを取り入れた季刊の「ふれあいだより」も定期的に送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各フロアに意見箱を設置したり、運営推進会議に家族の代表が参加したりして、家族の意見を汲み取る仕組みが作られている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を防ぐため、できる限り職員間のコミュニケーションをとっているが、やむを得ず退職された時は、利用者に良く状況を説明し、新しい職員が利用者になじむようにコミュニケーションをとる機会を多く持つように心掛けている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や計画担当者は認知症介護実務者研修などに参加しているが、まだ他の職員が参加するまでには至っていない。グループホーム協議会の研修などには参加されているが、事業所内での伝達も職員全員が理解するには至っていない。また、新入職員の研修なども計画的に実施されているとはいえない状態である。		階層別研修などの年間計画を作成し、職員のレベルアップのための研修を着実に進めてほしい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、その会合や研修の機会を通じて同業者との交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に自宅の生活状況に関する情報を収集し、ホーム入居後、利用者の生活が激変しないように支援されている。また、ホーム入居後寂しくならないように、最初はできるだけ家族が来所されるように依頼している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日々の会話の中から、本人の生活歴を聞き出し、人生の先輩から学ぶ姿勢をいつも持って利用者と接している。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で、本人の希望等を把握し、本人の意向に沿ったケアを提供できるよう努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者ごとに担当者が決まっており、月に1回のフロアごとのケア会議では担当者からの報告をもとに話し合いをし、介護計画の作成や評価を行っている。ケアプラン作成や評価の仕組みができているが、利用者全員に出来ているとは言いがたい。また、ケアプランについて職員全員が共有したことを確認する仕組みも十分とはいえない。</p>		<p>ケアプランやその評価は職員全員で取り組み、職員間で周知徹底される仕組みをつくり、目標に向かって全職員が取り組める体制を作りたい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月ごとにケアプランを見直しているが、内容についての同意を利用者及びその家族全員にももらっていない。また、ケアプランも利用者全員の分を作成するところまでには至っていない。</p>		<p>利用者や家族とよく話し合い、利用者全員について同意が得られる仕組みづくりが求められる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制がとられており、職員に看護師を配置していることで、事業所内での点滴、インシュリン投与などが実施できており、状態変化時にも対応できるしくみができている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に応じて、入居後も今までのかかりつけ医の受診を継続できるようになっている。また、遠方のかかりつけ医への通院も可能である。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制ができており、主治医継続・変更確認書等の書類も整備されている。重度化した場合における指針や同意書もきちんと作成されている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	玄関と会議室がある建物の1階には、職員の顔写真が飾られているが、利用者のスナップ写真など個人情報に関する物は掲示していない。個人情報に関わる同意書を作成し、管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の理念である「利用者さんが優先」の考えのもとケアを行い、利用者の希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	平均年齢87歳、最高年齢102歳と高齢者が多いので、食事の準備では、利用者にとって負担がかからないような作業を依頼している。また、日常生活動作上可能な方には食事の片付けなどを手伝ってもらっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日勤帯(夜9時まで)は、利用者の希望に応じて自由に入浴できる。入浴拒否が出やすい方には、タイミングを見計らい入浴を勧めている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	事業所の方針として、3ユニットがそれぞれ独自の食事メニューを作成しているが、買い出しに行く際には利用者も同行している。また、家族から生活歴を伺い、得意な分野で手伝ってもらったり、利用者の意向に添ったイベントの実現に繋げている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食事は職員がメニューを考え調理するため、週2~3回買い出しに行っているが、その際利用者も同行し、楽しく買い物もされている。また、定期的に散歩に出かけている。戸田市ウォーターフロントの公園が隣接している、散歩時の立地も良い。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する委員会を毎月開催し、鍵をかけることの弊害について話し合われている。その結果については、各フロアのケア会議に報告もなされているが、依然として非常階段やエレベーターには鍵がかけられている。		鍵をかけることの弊害について職員全員が理解し、まずは職員のゆとりがある時間帯から、鍵をかけないケアに取り組まれることが望まれる。また、非常階段は、万が一の災害時、避難出来る階段であること理解し、容易に鍵が開くように出来るだけ早く検討を進めることが望まれる。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、定期的に消防署と一緒に実施し、地域との協力体制もできている。また、災害時のマニュアルもできている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分確保状況が一覧表で記録され、体調不良などの変調が確認できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は元々職員寮であったが、談話室を改修して食堂にしたり、共有スペースとしてソファを置き、利便性を向上させている。浴室は一部バリアフリーに改善されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に空調設備と防災カーテンが設置されている。それぞれの利用者が使い慣れたベッドや筆筒などを持ち込まれていた。また、家族の写真や、作品の塗り絵など、利用者の好みのもが飾られており、個性が出ている。		